妙法蓮華経従地涌出品第十五

（地より湧き出る菩薩達）

（258 頁 1 行～264 頁 8 行）

爾の時に他方の国土の諸の来れる菩薩摩訶薩の八恒河沙の数に過ぎたる、大衆の中に於て起立し合掌し礼を作して、仏に白して言さく、

世尊、若し我等仏の滅後に於て此の娑婆世界に在って、勤加精進して是の経典を護持し読誦し書写し供養せんことを聴したまわば、当に此の土に於て広く之を説きたてまつるべし。

爾の時に仏、諸の菩薩摩訶薩衆に告げたまわく、（258 頁 1 行～258 頁 5 行）

その時に他の世界からやって来ていた八つのガンジス河の砂より多い数の菩薩大士達が、大衆の中において立ち上り、合掌し、礼拝して、仏に向かって言いました。

「世尊、もしも私達に、仏が世を去られた後のこの娑婆世界にあって、一生懸命に努力して努力して、この経典を護持し、読誦し、書写し、その恩に報いる行いをする役目をお許し下さるのならば、この世界において、必ずこの経を広く説き広めさせて頂きます」と。

その時に仏は、これらの菩薩大士にお告げになりました。

止みね、善男子、汝等が此の経を護持せんことを須いじ。所以は何ん、我が娑婆世界に自ずから六万恒河沙等の菩薩摩訶薩あり。一々の菩薩に各六万恒河沙の眷属あり。是の諸人等能く我が滅後に於て、護持し読誦し広く此の経を説かん。（258 頁 5 行～258 頁 8 行）

「もうそれ以上言わなくてもよい。善き志を持つ者達よ、貴方達がこの経を護持する必要はありません。何故ならば、この娑婆世界には、六万のガンジス河の砂の数に等しい菩薩大士達が居るからです。一人一人の菩薩にはそれぞれ六万のガンジス河の砂の数に等しい従者達がいます。これらの多くの人々が、私が世を去った後において、護持し読誦して広くこの経を説くでしょう」と。

仏是れを説きたもう時、娑婆世界の三千大千の国土、地皆震裂して、其の中より無量千万億の菩薩摩訶薩あって同時に涌出せり。是の諸の菩薩は身皆金色にして、三十二相・無量の光明あり。先より尽く娑婆世界の下、此の界の虚空の中に在って住せり。是の諸の菩薩、釈迦牟尼仏の所説の音声を聞いて下より発来せり。一々の菩薩皆是れ大衆唱導の首なり。各六万恒河沙等の眷属を将いたり。況んや五万・四万・三万・二万・一万恒河沙等の眷属を将いたる者をや。況んや復乃至一恒河沙・半恒河沙・四分の一・乃至千万億那由佗分の一なるをや。況んや復千万億那由佗の眷属なるをや。況んや復億万の眷属なるをや。況んや復千万・百万・乃至一万なるをや。況んや復一千・一百・乃至一十なるをや。況んや復五・四・三・二・一の弟子を将いたる者をや。況んや復単己にして遠離の行を楽えるをや。是の如き等比

無量無辺にして、算数・譬喩も知ること能わざる所なり。（258 頁 8 行～259 頁 10 行）

仏が、このように説かれた時、娑婆世界の三千大千の国土は、大地がすべて震動し裂けて、その中から無量千万億の菩薩大士達が同時に涌出してきたのです。これら多くの菩薩達は身体が皆金色で、三十二のすぐれた身体的特徴と無量の光明で輝いていました。彼等は全員、ずっと以前からこの娑婆世界の下の虚空の中に存在し住んでいましたが、これらの多くの菩薩達は、釈迦牟尼仏の説法の音声を聞いて、下方の世界より出発して来たのです。一人一人の菩薩は皆、それぞれ大勢の人々の指導者であって、各々、六万のガンジス河の砂の数に等しい従者を率いていました。五万・四万・三万・二万・一万のガンジス河の砂の数に等しい従者を率いた者達も沢山いたことは言うまでもありません。あるいは、は一つのガンジス河の砂の数に等しい数・半分のガンジス河の砂の数に等しい数・四分の一のガンジス河の砂の数に等しい数、あるいは千万億那由他分の一のガンジス河の砂の数に等しい数の者達も言うまでもありません。また千万億那由他のガンジス河の砂の数に等しい数の従者は言うまでもありません。また億万の従者も言うまでもありません。また千万・百万. 一万の従者も言うまでもありません。また一千・百・および十の数も言うまでもありません。また五・四・三・二・一人の弟子を率いた者も言うまでもありません。また単身で執着を捨て去った境界にある修行を好む者がいるのも言うまでもありません。このような者達の数は、計り知れないほど多く、計算によっても比喩によってもその数を知る事は出来ないほどでした。

是の諸の菩薩、地より出で已って、各虚空の七宝妙塔の多宝如来・釈迦牟尼仏の所に詣ず。到り已って二世尊に向いたてまつりて頭面に足を礼し、乃至諸の宝樹下の師子座上の仏の所にても亦皆礼を作して、右に繞ること三帀して合掌恭敬し、諸の菩薩の種々の讃法を以て、以て讃歎したてまつり、一面に住在し欣楽して二世尊を瞻仰す。是の諸の菩薩摩訶薩、地より涌出して、諸の菩薩の種々の讃法を以て仏を讃めたてまつる。是の如くする時の間に五十小劫を経たり。是の時に釈迦牟尼仏黙然として坐したまえり。及び諸の四衆も亦皆黙然たること五十小劫、仏の神力の故に諸の大衆をして半日の如しと謂わしむ。爾の時に四衆、亦仏の神力を以ての故に、諸の菩薩の無量百千万億の国土の虚空に徧満せるを見る。是の菩薩衆の中に四導師あり。一を上行と名け、二を無辺行と名け、三を浄行と名け、四を安立行と名く。是の四菩薩其の衆中に於て最も為れ上首唱導の師なり。大衆の前に在って各共に合掌し、釈迦牟尼仏を観たてまつりて問訊して言さく、

世尊、少病少悩にして安楽に行じたもうや不や。度すべき所の者教を受くること易しや不や。世尊をして疲労を生さしめざる耶。（259 頁 10 行～261 頁 1 行）

これら多くの菩薩達は、地下から出終って、各々が、虚空の七宝造りの美しい塔の多宝如来と釈迦牟尼仏の処に詣でました。到着した後、二人の世尊に向かい、その足を額に項いて礼拝し、また、諸々の宝石の樹の下の獅子座に坐っている（分身の）仏達の処でもまた礼拝して、右廻りに三度まわって敬意を表し合掌し恭しく敬い、菩薩としての種々の仏の功徳を褒めたたえる作法に従って讃嘆した後、片隅一面を占めて喜びの心をもって二人の世尊を仰

ぎ見たのでした。これら多くの菩薩大士達が大地から涌出して、菩薩としての仏の功徳を褒めたたえる種々の作法に従って仏を讃嘆し奉っている間に五十小劫という長い時が経過しました。この間中、釈迦牟尼仏は、黙然として坐っていました。そして、諸々の出家の男女も在家の男女もまた黙然とすること五十小劫という長い時間でした。（しかし）仏の神通力により、多くの人々にはそれが半日のように思わせたのでした。その時、出家の男女や在家の男女は、また仏の神通力によって、これら多くの菩薩達が、無量百千万億の国土の虚空に広くあまねく満ちているのを見たのでした。この菩薩達の集団の中に四人の導師がいました。一人目を上行といい、二人目を無辺行といい、三人目を浄行といい、四人目を安立行と言いました。この四人の菩薩は、その多くの人々の中の最も優れた中心的指導者たちで、大衆の前で、各々、共に合掌し、釈迦牟尼仏にを見奉り 問いたずねて言いました。「世尊、病も少なく、悩みも少なく、安楽にお過ごしでしょうか。悟りの境地に導こうとされる者達は、教えを受け入れ易いでしょうか。世尊を疲労させはしないでしょうか」と。

爾の時に四大菩薩、而も偈を説いて言さく

世尊は安楽にして　少病少悩にいますや　衆生を教化したもうに　疲倦無きことを得たまえりや　又諸の衆生　化を受くること易しや不や　世尊をして　疲労を生さしめざる耶

爾の時に世尊、諸の菩薩大衆の中に於て是の言を作したまわく、是の如し、是の如し。諸の善男子、如来は安楽にして少病少悩なり。諸の衆生等は化度すべきこと易し。疲労有ること無し。所以は何ん、是の諸の衆生は世々より已来、常に我が化を受けたり。亦過去の諸仏に於て供養・尊重して諸の善根を種えたり。此の諸の衆生は始め我が身を見、我が所説を聞き、即ち皆信受して如来の慧に入りにき。先より修習して小乗を学せる者をば除く。是の如きの人も、我今亦是の経を聞いて仏慧に入ることを得せしむ。（261 頁 1 行～261 頁 11 行）

その時に四人の大菩薩達は、詩を用いて次のように言いました。

世尊は安楽であって　病や悩みも少なくいらっしゃいますか　衆生を教え導いて仏道に入らせるのに　くたびれて厭きることはないでしょうか　また衆生達は　導きを受けることが容易でしょうか　世尊を疲労させてはいないでしょうか

その時、世尊は、これら多くの菩薩達の中で次のように言われました。「この通り、この通りである。諸々の志高き者達よ、如来は安楽であり、病も悩みも少ない。諸々の衆生は教え導いて迷いから救いやすく、疲労もあることはない。理由は何故かというと、この諸々の衆生達は、過去の前世から今まで、常に私の教えや導きを受けてきたからである。また過去の諸仏において供養し、尊重して、諸々のよい報いを招く元になる行為をしてきた。この諸々の衆生達は、わが身を見、わが説くところを聞き、そして信じ受け入れて如来の智慧に入ったのです。以前から修習して小乗の教えを学んでいた者達は除く。このような人も、私は今またこの経を聞かせて、仏の智慧に入れることを得させた」と。

爾の時に諸の大菩薩、而も偈を説いて言さく

　善哉善哉　大雄世尊　諸の衆生等　化度したもうべきこと易し　能く諸仏の　甚深の智慧を問いたてまつり　聞き已って信解せり　我等隨喜す

時に世尊、上首の諸の大菩薩を讃歎したまわく、善哉善哉、善男子、汝等能く如来に於て隨喜の心を発せり。爾の時に弥勒菩薩及び八千恒河沙の諸の菩薩衆、皆是の念を作さく、我等昔より已来、是の如き大菩薩摩訶薩衆の地より涌出して世尊の前に住して、合掌し供養して如来を問訊したてまつるを見ず聞かず。(261 頁 11 行～262 頁 7 行)

その時に諸々の大菩薩達も詩をもって言いました。

　「素晴らしい、素晴らしいことです　偉大な世尊よ　諸々の衆生達すべては　教化し悟りの境地に導くことは容易です　よく諸仏の　甚だ深遠な智慧を訊ね　聴き終って信じ理解する　我らは善行を見て喜びの心を生じるのです」

その時に世尊は、指導者の大菩薩達を褒め称えられた。「素晴らしいことだ、素晴らしいことだ、志高き者達よ、おまえたちはよく如来に共に喜ぶ心を生じさせた」と。その時、弥勒菩薩と八千のガンジス河の砂の数に等しい菩薩達は皆、この思いを生じました。「われらは昔から今までこのような偉大なる菩薩大士達が大地から涌出して世尊の前に現れ、合掌し供養して如来に問いたずね奉ったことを一度も見た事も聞いたこともない」と。

時に弥勒菩薩摩訶薩、八千恒河沙の諸の菩薩等の心の所念を知り、並に自ら所疑を決せんと欲して、合掌し仏に向いたてまつりて、偈を以て問うて曰さく

　無量千万億　大衆の諸の菩薩は　昔より未だ曽て見ざる所なり　願わくは両足尊説きたまえ　是れ何れの所より来れる　何の因縁を以て集れる　巨身にして大神通あり智慧思議し叵し　其の志念堅固にして　大忍辱力あり　衆生の見んと楽う所なり　為れ何れの所より来れる　一々の諸の菩薩　所將の諸の眷属　其の数量有ること無く恒河沙等の如し　或は大菩薩の　六万恒沙を将いたるあり　是の如き諸の大衆　一心に仏道を求む　是の諸の大師等　六万恒河沙あり　倶に来って仏を供養し　及び是の経を護持す　五万恒沙を将いたる　其の数是れに過ぎたり　四万及び三万　二万より一万に至る　一千一百等　乃至一恒沙　半及び三四分　億万分の一　千万那由佗　万億の諸の弟子　乃ち半億に至る　其の数復上に過ぎたり　百万より一万に至り　一千及び一百　五十と一十と　乃至三二一　単己にして眷属なく　独処を楽う者　倶に仏所に来至せる　其の数転た上に過ぎたり　是の如き諸の大衆　若し人籌を行いて数うること　恒沙劫を過ぐとも　猶お尽くして知ること能わじ　是の諸の大威徳　精進の菩薩衆は　誰か其の為に法を説き　教化して成就せる　誰に従って初めて発心し　何れの仏法を称揚し　誰の経を受持し行じ　何れの仏道を修習せる　是の如き諸の菩薩神通大智力あり　四方の地震裂して　皆中より涌出せり　世尊我昔より来　未だ曽て是の事を見ず　願わくは其の所従の国土の名号を説きたまえ　我常に諸国に遊べども未だ曽て是の事を見ず　我此の衆の中に於て　乃し一人をも識らず　忽然に地より出でたり　願わくは其の因縁を説きたまえ　今此の大会の　無量百千億なる　是の諸の

菩薩等　皆此の事を知らんと欲す　是の諸の菩薩衆の　本末の因縁有るべし　無量徳の世尊　唯願わくは衆の疑を決したまえ（262 頁 7 行～264 頁 8 行）

その時、弥勒菩薩大士は、八千のガンジス河の砂の数に等しい多くの菩薩達の思いを知り、同時に自らの疑いを解決しようとして、合掌して、仏に向かって、詩によって次のように問いました。

無量千万億の　大集団の多くの菩薩達を　昔から未だかつて見たことがありません　お願いですから、人間の中で最も尊いお方よ　お説きください　この者たちはどこから来て　何の因縁によって集まったのか　巨大な身体で大神通力があり　智慧は考えも及ばない程で　その信念は堅固であって　何事も気にしない大いなる心の力があり　衆生達が見たいと願うような人々です　彼らはどこから来たのでしょうか　それぞれの諸々の菩薩が　引き連れている諸々の従者は　その数を数えることもできないほどです　ガンジス河の砂の数に等しいほどです　或いは大菩薩で　六万のガンジス河の砂の数に等しい従者を率いる人もいます　これほど多くの人々が　一心に仏道を求めているのです　これほど多くの諸々の大師達が　六万のガンジス河の砂の数に等しいほどいて　共に来て仏を供養し　そしてこの経を護持します　五万のガンジス河の砂の数に等しい従者を率いるものたちは　その数はこれよりも多いのです　四万または三万　二万から一万に及ぶ　一千一百　および一ガンジス河の砂の数に等しい　半分または三分の一または四分の一　億万分の一のガンジス河の砂の数に等しい　千万那由他　万億の諸々の弟子をもつものは　または半億に至るものは　その数はまたそれよりもさらに多いのです　百万より一万に至り　一千および一百　五十または十　または三、二、一　一人であって従者はなく　一人でいることを願うもので　共に仏のところに来て至りものは　その数は上にあげた数よりもさらに多いのです　このような諸々の集団を　もしある人が器具を用いて数えようとしてもガンジス河の砂の数に等しい劫を過ぎても　なお答えを知ることはできないでしょう　この諸々の厳かで徳の高い　精進のできた菩薩衆を　誰が一体その為に教えを説き　教化して成就させたのでしょうか　誰に従って初めて悟りを得ようとする心を起こし　どの仏の教えを褒め称え　どの経典を銘記して忘れず修行し　どのような仏道修行を習い修めたのか　これらの諸々の菩薩は　神通力と大智力があり　四方の地が振動し裂けて　皆その中から涌出しました　世尊、私は昔より今まで　未だかつてこのような事を見た事がありません　願わくは彼らの属する　国土の名をお説きください　我らは常に諸国を旅していますが　未だかつてこのようなことを見た事がありません　私はこれらの人々の誰一人として存じ上げません　（彼らは）突然に大地から出て来たのですから　願わくはその因縁をお説きください　今この大いなる集いの　計り知れない百千億の　この諸々の菩薩たちは　皆この事を知ろうと欲しています　この諸々の菩薩の集団が　どのように始まり　どのように今に至っているのかの経緯があるに違いありません　計り知れない徳を具えた世尊よ　どうかお願いですから人々の疑いを解いて下さい